

# 鹿児島県柔道会だより

■発行人/北 哲郎 ■編集/総務部編集委員会 ■発行/財団法人鹿児島県柔道会 (電話 099-222-7770)

## 柔道ルネッサンスへの 取り組み

嘉納治五郎師範は、柔道を通しての人間教育・社会貢献を理想に掲げられました。柔道が果たすべき役割を明確にして、柔道の普及・発展に尽力された創世期。現在の柔道界はどうでしょうか。世界に誇れる競技力は誰もが認めるところですが、その精神性、マナー等についてはどうか。柔道人は、本来どのように在るべきか。今一度原点に立ち返って考えようではないかという想いから、平成13年に始まった「柔道ルネッサンス」は、講道館・全日本柔道連盟の合同プロジェクトです。

北 哲郎会長は、就任時の抱負の中で、一番目に「競技力の向上と柔道を通じた青少年の育成」を掲げられています。

本県柔道の競技力は、各学校や各団体・各支部の先生方の熱心な御指導や毎月行われている県選抜中学生強化練習等の成果が表れて、確実に向上しています。(競技成績の詳細は、「鹿児島県柔道会だより」第2号に掲載)

選手の競技力の向上とともに、指導者、監督、選手、観客それぞれのマナーの向上も図っていく必要があると考えています。

平成17年度の本県柔道会の「柔道ルネッサンス」活動は、5月の柔道指導者講習会で、県総合体育センター所長の西川達也先生に「柔道ルネッサンス」についての講演をいただきました。10月には、柔道ルネッサンス実行委員会から要請があり、県内の中学生を対象とした「柔道ルネッサンス」に関するキャッチフレーズを募集したところ、多数の応募がありました。

また、各種大会では、開会式の会長あいさつや監督・審判会議等で、「柔道ルネッサンス」の話や趣旨説明をしていただいております。

さらに、試合会場に「柔道ルネッサンス」の横断幕やポスターを掲示して、皆様方に御理解と御協力をお願いしているところです。

なお、柔道ルネッサンス実行委員会から、試合場におけるマナーについて改善するように指摘を受けている具体的内容は、以下のとおりです。

- 1 試合会場、練習会場使用におけるルールの厳守
  - ・ 各会場での使用規定の厳守
- 2 会場等への正規入場及びIDカードの適正使用
  - ・ IDカードの貸し借り、友人・知人等を通じての

### ID取得の厳禁

- 3 審判員への節度ある態度
  - ・ 暴言や判定への不服
- 4 礼法の徹底
  - ・ 「礼は、美しい柔道の心」
- 5 所属関係者に対する応援方法の徹底
  - ・ 座席の占有、試合者や審判員への野次等
- 6 試合会場等のクリーン化
  - ・ 「来た時よりも美しく」
- 7 お互いの挨拶及び譲り合い
- 8 会場内での携帯電話の節度ある使用

上記のことについては、各種大会の審判・監督会議の中でもぜひ取り上げていただきたいと思います。

「全柔連だより」の中で、山下泰裕先生が「選手は、指導者を映す鏡である。」と述べられていますが、柔道を通しての人間教育、社会貢献という理想の実現に向けては、指導者の先生方の更なる御理解と御協力が必要不可欠であると考えております。

最後に、「柔道ルネッサンス」に関する皆様方のいろいろな御意見やアイデアをお聞かせください。

(県柔道会ルネッサンス担当常務理事 徳永 正明)

## 「柔道ルネッサンス」に関する キャッチフレーズ

鹿児島市立松元中学校 (指導者 西 淳一)

- 一つ一つの目標が夢への第一歩 (2年 石橋 知明)
- 自分にあった柔道を！目指せ一本 (2年 上菌 皓平)
- 心技体みんな学べば一本 (2年 壽福 慶仁)
- 柔道で身も心も鍛えよう (2年 川井田 貞斗)
- 目標以上に頑張る (1年 新山 健太郎)
- いつでも礼儀を大切に (1年 井田 龍太郎)
- みんなが一つになり、勝つ喜びを知る (1年 里村 勇昇)
- 柔道で心身鍛え、礼節磨く (1年 久保 賢吾)
- 礼は、最大の得意技 (1年 田中 光)
- さあ一本目指せ、未来の日本 (1年 四郎園 繭)
- 目標を持って練習に取り組むことが成長の第一歩 (1年 新村 夏美)
- 心身ともに鍛えよう (1年 西村和華子)

鹿児島市立谷山中学校 (指導者 宮久保 美鈴)

- 柔道でつなぐ広げる友情の輪 (2年 鶴田 裕己)
- 己への挑戦、未来への挑戦 (1年 森久保 啓太)

夢実現、未来への挑戦 (1年 坂本 裕喜)  
 柔の心、一本 (1年 鳥越 健太)  
 柔道で世界をつなごう (1年 堀 佑輔)  
 柔道でひろがる仲間と心 (1年 今村 翔)  
 夢と挑戦への一歩 (1年 鶴田 泰己)

鹿児島市立天保山中学校

人にやさしく自分にきびしく柔道に一直線  
 (2年 末吉 智輝)

鹿児島市立伊敷中学校 (指導者 田原 幸一)

柔道で心も体もきたえよう (2年 倉内 宣長)  
 皆の熱い思いを試合に (1年 大平 真司)  
 柔道は、心と体をきたえるスポーツ(1年阿部 翔太)  
 投げられる度に友情が深まる (1年 春山 裕喜)  
 柔道は仲間がいるから強くなる (1年 東 幸翼)  
 柔道で作ろう世界の輪 (1年 上山 雄貴)  
 みんなでしようよ楽しい柔道 (1年 森園 琢磨)  
 友と友情をふかめ、いろいろな人に挑戦 それが柔道  
 (1年 木村 勇太)

柔道は、礼儀も技も学ぶもの (1年 春山 裕喜)  
 柔道に心を打ち込み、記録に向かって挑戦 努力  
 (1年 東 幸翼)

みんなでつくろう柔道の心 (1年 瀧山 翔太)  
 柔術の道をきわめる そして友と友情を深める 挑戦  
 それが柔道 (1年 木村 勇太)

負けても礼儀はしっかりと (1年 中城 瑛嵩)

姪良町立帖佐中学校 (指導者 西 有生央)

大切にしよう、相手と礼を (2年 前田 武)  
 柔道で世界をつなごう友達と (2年 田中 泰貴)  
 柔道で広がる友情の輪 (1年 前原 由貴)

## 中学校柔道の振興を 図るために

### ○ 強化練習を始めた動機

2001年2月県下中学校新人柔道大会終了後、北哲郎理事長(現会長)に呼ばれ、平成14年度(2001年4月の第1週土曜日)から、九州選抜中学生柔道体重別団体優勝大会が開催されるという話があり、それに出場する選手の選考も依頼された。

そのころ、各階級の個人戦のある大会は、4月の国分市縄文旗柔道大会と7月の県総合体育大会があった。

2年生以下の新人による体重区分が確認できず、県レベルの実績と各地方大会の情報を集め、代表選手を決める選考会を実施した。選手決定と申し込み提出期限が限られていたため、選手選考のための場所(県武道館と鹿児島アリーナ)の確保が出来なかった。地理的な位置、道場の広さ、借用手続き等の手間を考慮したうえ、単人中学校武道館で行うことにした。

代表選手の選考をするために、中学校の現場で指導している堅山 浩治(隼人中学校)、寺口 純一郎(立神中学

校)、田原 幸一(鹿屋東中学校)、西 淳一(松元中学校)、脇岡 博史(川内中央中学校)、西 有生央(谷山中学校)の6名が立ち会って選出した。

第1回九州選抜中学生柔道体重別団体優勝大会の鹿児島県代表選手として、55kg級:野村 翔太(財部中学校)、60kg級:新福 孝人(財部中学校)、66kg級:堅山剛(隼人中学校)、73kg級:堀 弘輔(志布志中学校)81kg級:長谷川 大輔(財部中学校)、90kg級:瀬戸口哲朗(川内中央中学校)、90kg 超級:宝来優(串木野中学校)の7名を決定した。大会までの約一ヶ月間に週1回(計4回)の代表選手を中心とした強化練習を行った。この経験から、毎年の鹿児島県代表選手選考と県下中学校柔道の競技力向上(技能と人間性)を図るとともに、相互の交流・親睦を深めることを目的として、平成14年4月から、月に1回の県中学校強化練習を県武道館で実施することになった。

### ○ 強化練習の内容

8:30 強化指導員の打ち合わせ

8:45 受付

9:00 練習(午前の部)

① 日程・内容の説明

② 準備運動

・ ストレッチ ・ 回転運動

・ 補助運動 ・ 受け身

③ 打ち込み

④ 投げ込み

⑤ 基立ち

・ 強化指定選手 3分×5本

・ 各階級(1~3名)

2分×4本を5セット

※ この自由練習を見て、午後の試合練習の参加者を選出する。

⑥ その他(寝技を含む)

11:30 昼食・休憩

13:30 練習(午後の部)

① 各階級の試合練習参加者の発表

② 準備運動

・ ストレッチ ・ 回転運動

・ 補助運動 ・ 受け身

③ 打ち込み

④ 投げ込み

⑤ 試合練習

⑥ 基立ち

・ 強化指定選手 3分×4~5本

15:30 ⑦ 整理運動

⑧ 来月の強化指定選手の発表、諸連絡

16:00 終了

### ○ 強化練習の成果

平成14年度4月から月1回(年間計12回)の強化

練習を、毎年度2月には、次年度の九州選抜中学生柔道体重別団体優勝大会のための選手選考会を、3月には代表選手の特別強化練習（3～4回）を実施している。

この強化練習も4年目となり、中学校柔道指導者に定着してきた。大島や種子島などの離島や遠方の地区から時間をかけて参加している生徒も多い。また、指導者の参加も多くなり、保護者の方々の応援・見学も増えている。

強化練習の成果を挙げると

- ① 指導者が、自分の学校で指導した結果を確かめ、課題を確認でき、指導方法の改善が出来た。  
(指導者がレベルアップした。)
- ② 指導者が、研究心や向上心を持つことでチームや個人のレベルアップが期待できる。
- ③ 強化練習の回数を重ねたことで、交流が深められ、協力や情報の収集・交換もスムーズに出来るようになってきた
- ④ 生徒は、自分の実力が確かめられ、今後競い合う相手や目標とするライバルの存在を意識できる。それに向心ややる気をもつことで、次回の強化練習が楽しみになる。
- ⑤ 他の学校の友達や仲間が増え、良い交流が深まる。  
全国大会や九州大会での鹿児島県の代表選手は、準備運動や打ち込み、組み手の確認や投げ込み等の調整を仲良くまとまって出来る。柔道の経験がない引率の先生も安心して、落ち着いて対応できる。
- ⑥ 生徒の送迎に協力者が増えた。  
各学校で、輸送や配車計画がスムーズに行えるようになったということが聞こえてくる。
- ⑦ 県柔道会から強化指定選手には、昼食の弁当の支給がある。次回も強化指定選手になろうと頑張り、指定外の生徒は、次回は、指定選手になろうと努力する。お互いに切磋琢磨している。

## ○ 今後の課題

- ① 中学校柔道強化指導員の指導力のレベルアップ。  
県中学校柔道選手の競技力向上への協力はもちろんのこと、自分の学校の柔道部の発展を意識し、良いチームづくりやや良い選手を育てる。
- ② 選抜による県外遠征や合宿を実施する。
- ③ 県内中学校トップレベルの柔道選手の県外流出を抑える。
  - ・ 県内中学校柔道指導者の意識改革
  - ・ 中高一貫の強化練習等の実施
  - ・ 鹿児島県高等学校柔道のレベルアップ
- ④ 魅力ある人間づくり。
  - ・ 返事や挨拶がしっかりでき、身なり・服装が整い、謙虚さや向上心を持った生徒の育成

(県中学校柔道強化指導員 阿久根中学校 堅山浩治)

## 各種大会の成績

### ・第59回県民体育大会(柔道競技)

9月18日(日) 鹿屋市武道館

(予選リーグ)

日置 ②	——	1	川辺
熊毛 ②	——	1	始良
揖宿 ②	——	1	大島
川薩 ②	——	1	曾於
肝属 ④	——	1	伊佐
鹿児島④	——	1	出水
日置 ②	——	0	大島
揖宿 ⑤	——	0	伊佐
熊毛 ①	——	1	肝属 (代表戦)
川薩 ②	——	1	始良
出水 ②	——	1	曾於
鹿児島②	——	2	川辺 (内容)

(決勝トーナメント)

(準々決勝)

日置 ①	——	0	揖宿
------	----	---	----

(準決勝)

熊毛 ④	——	0	日置
鹿児島④	——	1	川薩

(演技 極の形) (取) 八反田 太5段  
(受) 入佐 一則5段

(決勝)

鹿児島①	——	1	熊毛 (代表戦)
------	----	---	----------

### ・第53回県下高等学校新人柔道大会及び第19回県下高等学校新人女子柔道大会

10月26日(水), 27日(木) 鹿児島アリーナ

団体戦 男子	1位	甲陵高等学校
	2位	鹿児島商業高等学校
	3位	鹿児島実業高等学校
	4位	鹿児島工業高等学校

団体戦 女子	1位	鹿児島南高等学校
	2位	鳳凰高等学校
	3位	出水中央高等学校
	4位	中種子高等学校

個人戦 男子 (60kg級)

1位	濱田 恵太 (鹿児島情報高等学校)
2位	藤原 了 (鹿児島情報高等学校)
3位	田中 康平 (鹿児島商業高等学校)
3位	山下銀治郎 (鹿児島工業高等学校)

" 男子 (66kg級)

1位	羽生 優喜 (鹿児島実業高等学校)
2位	古賀 陽佑 (鹿児島南高等学校)

- 3位 西川 竜二 (中種子高等学校)  
3位 鈴木 和也 (甲陵高等学校)
- 個人戦 男子 (73kg級)  
1位 池田 敬介 (甲陵高等学校)  
2位 内田武三 (鹿児島商業高等学校)  
3位 谷山 正賢 (鹿児島実業高等学校)  
3位 上林山竜也 (鹿屋工業高等学校)
- " 男子 (81kg級)  
1位 内門 卓也 (甲陵高等学校)  
2位 大王 貴広 (鹿児島商業高等学校)  
3位 折口 和史 (鹿児島商業高等学校)  
3位 原 龍之介 (鹿児島工業高等学校)
- " 男子 (90kg級)  
1位 新平 聖也 (甲陵高等学校)  
2位 原 薫 諒 (鹿児島商業高等学校)  
3位 森山 孝一 (鹿児島情報高等学校)  
3位 相川 翔太 (鹿児島商業高等学校)
- " 男子 (100kg級)  
1位 松木 克尚 (鹿児島工業高等学校)  
2位 脇黒 幸太 (鹿児島工業高等学校)  
3位 勝田光士郎 (鹿児島商業高等学校)  
3位 蔵 光志 (甲陵高等学校)
- " 男子 (100kg超級)  
1位 梶屋 祐太 (中種子高等学校)  
2位 田中 亮 (鹿児島工業高等学校)  
3位 大野 隆浩 (鹿屋高等学校)  
4位 坂中 慎吾 (鹿児島商業高等学校)
- 個人戦 女子 (48kg級)  
1位 瀬戸口はつき (れいめい高等学校)  
2位 福 良江 (中種子高等学校)  
3位 桑鶴 華奈 (鹿児島南高等学校)  
4位 大西 幸 (出水中央高等学校)
- " 女子 (52kg級)  
1位 高野 望美 (出水中央高等学校)  
2位 西 裕弥 (鹿児島南高等学校)  
3位 遠藤 静香 (鳳凰高等学校)  
3位 堂崎 歩美 (出水中央高等学校)
- " 女子 (57kg級)  
1位 吉元 佳代 (鹿児島南高等学校)  
2位 山下 りな (れいめい高等学校)  
3位 大町田 早 (中種子高等学校)  
3位 内之浦智美 (出水高等学校)
- " 女子 (63kg級)  
1位 兒玉 裕未 (鹿児島南高等学校)  
2位 東馬場未来 (鹿児島南高等学校)  
3位 新原みなみ (鳳凰高等学校)  
3位 新平早紀子 (鳳凰高等学校)
- " 女子 (70kg級)  
1位 福留めぐみ (鳳凰高等学校)  
2位 口元 涼子 (鳳凰高等学校)  
3位 清水 聖子 (中種子高等学校)  
3位 石坂 教 (串木野高等学校)

- 個人戦 女子 (78kg級)  
1位 田代真莉奈 (鹿児島南高等学校)  
2位 上山 紗季 (出水中央高等学校)  
3位 原田千佳代 (徳之島高等学校)  
3位 福永 美由紀 (串木野高等学校)
- " 女子 (78kg超級)  
1位 抜元 美穂 (鹿児島南高等学校)  
2位 上中別府宏美 (鳳凰高等学校)  
3位 平山みどり (出水中央高等学校)

## ・第32回県下少年柔道大会

11月13日(日) 鹿児島アリーナ

- 団体戦 1位 末吉柔道スポーツ少年団  
2位 志布志柔道スポーツ少年団  
3位 清原柔道スポーツ少年団  
4位 米倉柔道館

## 故九段法亢先生を悼む

平成17年11月28日未明、講道館柔道九段法亢保晴先生が、他界されました。享年90歳、まさに「往生の素懐をを遂げられた」と形容すべきかもしれません。

先生は、旧制中学校を卒業後、明治大学へ進まれ、昭和14年に御卒業。戦前は、鹿児島商船学校及び旧制中学校、旧満州帝国武道会で柔道指導にあたられました。

昭和21年から常務理事、昭和42年から理事長、昭和60年からは、故林 岩三先生の後任として会長に就任され、平成17年4月に退任されるまでの間、柔道一筋の生涯をおくって来られました。

また、戦後の学校柔道復活と同時に国立鹿児島大学の柔道師範として柔道指導にあたられ、県内外に数多くの柔道指導者を育成されました。

この間、特筆されるべきものとして、昭和45年第4回全日本体重別選手権大会の開催。昭和47年第27回国民体育大会の開催。この太陽国体を総合優勝に導くなど多くの成果と指導力を発揮されました。

昭和50年には、全国に先駆けて鹿児島県柔道会の財団法人化の実現、昭和58年には、老朽化した柔道会館の建て替え、平成8年12月1日には、鹿児島県柔道会創立50周年記念行事の挙行など多大の功績を残されました。

このように多くの功績を残された偉大な指導者を失った今、英魂永く留められ、我が県柔道会の前途に永遠の御加護を垂れ給わんことを願うのみです。

生涯をひたすら鹿児島県柔道会の発展に心骨を注がれた先生の絶大なる御功績に対し、改めて深い敬意と心からの感謝を申し上げ、先生の御冥福をお祈りします。

先生どうか安らかにお眠りください。合掌。

財団法人鹿児島県柔道会会長 北 哲郎

## 編集後記

来年は、戌歳。良いお年をお迎えください。

(県柔道会総務部理事 畑添 勉)